

まごころだより

2021年 12月号

もう直ぐ師走。あっと言う間に一年が過ぎたように感じます。コロナによって翻弄された年になりましたが、三密を避ける、手指の消毒、家財の消毒、マスクの着用はもう当たり前身に付いています。コロナの最近はかなり減少して収まりを見せている様に見えますが本当なのでしょう。報道では街の人達にインタビューで心境を聞いたりしていますが、開放感を感じている様な画ばかりが取り上げられているような感じがします。きっと次に拡大を見せると大騒ぎするような報道がなされるのでしょうか。私達は今までと同じように精いっぱい拡大防止に努めていきます。



“火災避難訓練”

寒くなる季節に入り、暖房設備が使われる様になり、今まで以上に失火の恐れが増えるかもしれません。万が一、火事に遭遇した時の為に避難行動を実際にとる練習が重要になります。

マニュアルを読むだけでは想像はできてもとっさに行動できるか、そうでないかで大きく差が出ると言われています。繰り返し練習しておくことで万が一の時には適切な行動がとれる様にしておかなければなりません。我が施設の利用者の方達は繰り返



される避難訓練で非常に落ち着いて行動してくださいませ。急いで逃げることは大事なことです。それと同時に事故にも気を付けなければなりません。転倒などしてかえって逃げ遅れることもあります。落ち着いて行動する方が、結果として早く避難できるのではないのでしょうか。

“報恩講”

普段は代表としておりますが、この時は住職に替わります。利用者はここがお寺だと理解されているようですが、実際にお寺の住職だとわかるのは衣をまとった姿ではないでしょうか。

お勤めが始まると緊迫した空気が変わり、皆さん神妙な顔つきになられます。お勤めが終わると次は法話になりますが、住職は解りやすい様に話しますが、心が伝わればいいなと言う願いがこもった内容の法話です。



“お茶会”

この度のお茶会にはご近所の方が参加してくださいました。凡そ二年ぶりの参加です。その間にもお会いすることがありましたが、会話はお互い元気しているか気使いしながら、出かける機会が減ってしまい、お友達とは電話で繋がっているものの、やっぱり顔を見ながらお喋りがしたい等の内容だと言っておられました。久しぶりにお出で頂いたものですから私達も感激してしまって、コロナ前に毎月の催し事に参加していただいていたことが思い出されとても嬉しく思いました。またお誘いして以前の様にお会いする機会を設けていきたいと思えます。